武　一　中

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

平成３１年　１月３１日
武蔵野市立第一中学校
学校だより３０－９号

「学問のすすめ」

校長　　若槻　善隆

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり。」の言葉で始まる『学問のすすめ』は、一万円札の肖像画にもなっている福沢諭吉が記した名著です。

その福沢諭吉は、中津藩（現在の大分県中津市）の下級武士の家の二男三女の末っ子として誕生しました。（父親は大坂の蔵屋敷で働いていたので、生まれは大坂ということになっています。）父親は身分制度でとても苦労していましたが、諭吉がわずか１歳の時に亡くなってしまいました。父の死後、母親は子どもたちを連れて、中津に帰郷しました。少年時代は、貧しいながらも一生懸命勉学に励みました。半面、厳しい母親と封建的な気風に反発して、悪戯もしていたそうです。特に身分の違いで差別されることは一番嫌いなことだったようです。

19 歳の時に、兄の誘いで長崎に行きオランダの砲術について学ぶことになりました。独学で蘭学の勉強にも励みました。しかし、事情があって長崎にいることができなくなり、20 歳の時に大坂に行くことになりました。大坂は長崎にも劣らないくらい蘭学が盛んな土地で、諭吉は緒方洪庵の「適塾」に入門しました。後に塾頭（最も優秀な生徒）にまで上り詰めました。

そして 23 歳の時、中津藩から江戸に行くよう命じられました。江戸へ出た諭吉は、築地の鉄砲洲というところで、藩中の子弟に蘭学を教えるようになりました。その翌年、安政の五国条約が発布され、横浜が開港されました。そこで、諭吉は横浜の外人居留地に見物に行ったところ、とても驚いたことがありました。歩いていた外国人に得意なオランダ語で話しかけたところ、言葉が通じないどころか外国人の店の看板がどうしても読めないのです。なぜなら、商人の間で使用されているのは英語だったからです。ショックを受けた諭吉でしたが、以来、独学で英語の勉強を始めました。

独学で英語を学んでいた諭吉にチャンスがやってきました。蘭医の伝手（つて）で、江戸幕府初のアメリカ使節団に加わることが許されたのです。24 歳の諭吉は咸臨丸に乗船し、勝海舟やジョン万次郎たちと一緒にサンフランシスコに渡りました。さらに 27 歳の時には欧州使節としてヨーロッパ諸国を巡り、外国の社会の仕組みや文化を学び、『西洋事情』という本を刊行しました。

やがて諭吉は、「これからの若者は世界を目指してほしい」という強く思いをもつようになり、古いしきたりや慣習にとらわれない教育を実践しようと、蘭学塾から英学塾に転向しました。そして、その塾を慶応４年／明治元年（1868 年）、「慶應義塾」と名付けました。（「義塾」には社会に貢献する人材を育成するという意味が込められています。）

そして、明治５年（1872 年）に、冒頭の『学問のすすめ』が発刊され、大ベストセラーとなり、当時の人々に多く影響を与えました。「天は人の上に…」の冒頭の部分が有名ですが、実はそのあとにある言葉が大事なのです。それは「**されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、愚かな人あり、貧しき人もあり、富めるものもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。**（中略）**賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由（よっ）て出来るものなり**」。諭吉は皆が平等でない現実を問題に思っていました。そして、平等な世の中にするために、みんなが「実際の生活に生かせる学問」＝「実学」を学ぶことが大切だと考えていました。『学問のすすめ』はその後 16 編が発行され、明治の初めの激動の時代に、日本がどう進んでいくべきかを指南している書物となりました。

福沢諭吉が書いた『学問のすすめ』の原文は難しいかもしれませんが、一中の図書室に、斎藤孝さんの『現代語訳　学問のすすめ』もあります。これから世界に羽ばたいていく皆さんに、ぜひ読んでほしいと思っています。（わがままと自由の違いについても書かれていますよ。）　　（敬称略）

２年生　ポスターセッション

１月１７日（木）５，６校時に第２学年のポスターセッションが行われました。２年生の中心テーマは「自国文化理解」。鎌倉校外学習の経験を活かし、「オーバーツーリズム」「観光の未来」「異文化理解」「民泊問題」「観光地のごみ問題」など、自分たちで課題を見つけ、調べ学習をし、課題を解決するための方策を考えてきました。その成果を発表するとともに、１，３年生と一緒に課題解決の方策を話し合いました。２０２０年東京オリンピックや２０２５年大阪万博にも触れ、多くの外国人を日本に迎え入れる立場として、様々な課題にどう対処していくことがよいのかについて触れるグループも多く、深い学びの場となりました。３年生の代表生徒から「日本人としてどう生きていくことがいいのか、深く考えさせられました」との講評もありました。

心のハーモニーを・・・・2年生　連合音楽会

２月１日（金）に武蔵野市立中学校連合音楽会が武蔵野市民文化会館において開催されます。全体の５番目に登場する第一中学校は「時の旅人」と「地球の鼓動」の２曲を披露する予定です。これまで、全員が心をひとつにして声を合わせて会場に響かせようと、音楽の授業はもちろん、昼休みなどで練習を積み重ねてきました。また、1月３０日（水）には、１，３年生、保護者の方や井之頭小学校６年生を前に校内発表会が行われました。当日も、一中の伝統ともいえる素晴らしい合唱を披露してきます。

「時の旅人」　　指揮　安藤　吉平　君　　伴奏　斉藤　天音　さん
「地球の鼓動」　　指揮　内藤　菜々子　さん　　伴奏　三河　茉莉絵　さん
全員合唱「夢の世界を」　伴奏　鈴木　あい　さん

ユニセフ学習会＆ユニセフ募金

２月４日（月）に、生徒会が毎年取り組んでいる「ユニセフ学習会」を行います。実施に当たり、生徒会役員が１２月２５日（火）にユニセフハウスを訪問し、ユニセフの活動内容や子どもの権利について取材をし、援助を必要としている地域の、学校のモデルルームの見学や生活のビデオを見てきました。今年のテーマは「子ども兵」です。この学習会を通して、命と健康を守ることの大切さと募金活動への協力を伝えていく予定です。

募金活動期間は、２月５日(火)から２月１２日(火)までです。生徒会役員が各校門で、朝８時から８時１５分まで行います。皆さんのご協力をお願いします。

【一中生の活躍】

◎吹奏楽　東京都中学校アンサンブルコンテスト　Ａ部門（木管八重奏）金賞
　　Ｂ部門（金管八重奏）銀賞

◎陸上部　東京都中学校ロードレース大会
　　女子２・３年生　１ｋｍ　　第４位　池田　寛乃さん　　３分４４秒

２月行事予定

日	曜日	行　　事	日	曜日	行　　事
1	金	都立高校推薦発表・手続き ２年連合音楽会（市民文化会館） 市内美術展(始)（市民文化会館）	12	火	私立高校一般入試
3	日	中学生『東京駅伝』大会	15	金	武教研研究発表会のため⑥カット
4	月	ユニセフ学習会	18	月	生徒会朝礼
5	火	美術展(終)	21	木	避難訓練
6	水	都立高校一次出願	22	金	都立高校学力検査（一次）①
7	木	安全指導・全校委員会	23	土	都立高校学力検査（一次）②
8	金	各種委員会	25	月	学年末考査（理・英・美）
10	日	私立高校一般入試	26	火	学年末考査（国・保体・音）
11	月	建国記念の日､私立高校一般入試	27	水	学年末考査（数・社・技家） ＰＴＡ運営委員会